

令和元年9月24日

医療法人弘仁会  
熊本総合医療リハビリテーション学院  
学院長 辻野智二 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 笠岡俊志

### 令和元年度 学校関係者評価委員会報告

熊本総合医療リハビリテーション学院学校関係者評価委員会は、平成30年度自己点検・自己評価報告書に基付き、学校関係者評価を実施したので、以下のとおり報告します。

#### 記

#### 1. 学校関係者評価委員

委員長 笠岡俊志 (熊本大学病院 救急・総合診療部 教授)  
委員 福田靖子 (合志第一病院 リハビリテーション科 科長)  
今田吉彦 (熊本機能病院 総合リハビリテーション部 作業療法課 課長)  
黒田彰紀 (熊本赤十字病院 腎臓内科部 臨床工学課 腎センター ME係長)  
浅井裕晴 (青磁野リハビリテーション病院 義肢装具室)  
西岡和男 (熊本市消防局 警防部 首席審議員)  
紫藤光一 (熊本県立東稜高等学校 校長)  
木村淳一 (熊本総合医療リハビリテーション学院同窓会 麒麟倶楽部 会長)  
岡田美由紀 (熊本総合医療リハビリテーション学院後援会 会長)

#### 2. 学校関係者評価委員会開催状況

日時：令和元年6月6日(木) 19:00～20:10  
会場：熊本総合医療リハビリテーション学院 1号館 会議室2

#### 3. 学校関係者評価報告書

別添「令和元年度学校関係者評価報告書」のとおり

令和元年度

学校関係者評価報告書

令和元年9月

熊本総合医療リハビリテーション学院

## 1 教育理念・目的・教育目標等

### 現 状 と 課 題

教育理念・目的・教育目標と共に、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び卒業認定・称号授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の3つのポリシーを定め、事業計画等に明記し、学外へは学院案内及び学院ホームページ等により広く開示している。教育理念と教育目標に基付き、各学科において、それぞれの専門性に沿った教育目標を掲げ、医療人育成に向けた教育活動に取り組んでいる。

5学科を擁する多様な医療専門職教育を展開していることや、長い歴史を有し多数の卒業生が地域医療界等で活躍していること、また、学外実習を充実させ、専門職としての実践的な知識と技術を修得させていること、それを可能にする多岐にわたる学外実習施設との連携を有すること等が学院の特色である。

臨床工学学科及び義肢装具学科は平成30年度に教育課程の完成年度を迎えたことから、専門教育の重要性に鑑み、教育課程編成委員会の意見・提言を踏まえ、令和元年度入学生からの教育課程を変更している。また、理学療法学科及び作業療法学科は令和2年度から施行される新たな「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」に準拠すべく、教育課程変更に向け協議している。

なお、法人理事会及び職員会議において、学校関係者評価委員会等からの意見・提言を踏まえ、中期的な構想について協議し、事業計画に反映させている。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・3つのポリシーとして「入学者受入れの方針」「教育課程編成・実施の方針」及び「卒業認定・称号授与の方針」を定め、学院案内(パンフレット)にも明記されているため、入学から卒業までの教育の基本方針が分かり易い。

## 2 学校運営

### 現 状 と 課 題

教育理念と教育目標に基づく運営方針は明確に定め、事業計画に反映させると共に、職員会議等を通して全教職員に周知している。職員会議及び各種委員会活動による運営体制は組織化されており、各委員会で審議した事項は、職員会議にて報告、承認を得るなど、意思決定システムは明確で、適切に機能している。なお、運営組織のスリム化や業務負担の平準化に向けて、平成30年度から各種委員会等の組織を一部見直している。

学校関係者評価委員会を開催し、平成29年度に実施した自己点検・自己評価結果に基付き外部評価を行っている。学校関係者評価委員会の意見・提言は教育運営に適切に取り入れられている。

教員の採用については、養成施設指定規則に定められた基準を充たす人材を確保しており、賃金制度は、就業規則の給与規程に基付き、各職種等に応じて職務手当等が定められている。なお、学生の成績閲覧システムについては、学内Wi-Fiエリアでの運用を行っている。また、学生の成績、出欠、学籍等を一元管理する教務システムを平成30年度から導入している。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

意見・提言はなく、内容は妥当と思われる。

### 3 教育活動

#### 現 状 と 課 題

教育理念、教育目標の達成に向けて、カリキュラム・ポリシーを適切に定め、事業計画に記すと共に職員会議にて周知している。各学科の教育目標、育成人材像は、入学者の基礎学力の状況や教育課程編成委員会からの意見等を踏まえ、適切に方向付けている。

教育到達レベルは、国家資格取得という明確な目標に沿って設定しており、修業年限に対応すると共にディプロマ・ポリシーとして明確化している。また、各学科の教育内容は養成施設指定規則の基準を充たすと共に、教育課程においては各授業科目を順次的・体系的に位置付け、カリキュラム・ツリーにて可視化している。なお、卒業生を対象に実施した「卒業生アンケート」では、資格取得等に係る教育内容について高い評価が得られている。

教育目標の具現化に向け、養成施設指定規則に基付く必要資格を有し、的確な専門力と指導力等を持つ教員を確保している。職員の研修等に係る規程に基付き研修を行うと共に、FD（ファカルティ・デベロップメント）委員会が中心となり、学生による授業評価やビデオ映像を活用したピアレビュー等を実施し、教育力向上に繋げている。また、教員は学会等への参加や発表等を通して専門性の向上や指導方法の工夫改善に取り組んでいる。

学生の成績評価・単位認定基準は、学則及び細則において明確に定められ、適切に運用されている。また、キャリア教育については、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、学外実習等を通して実施している。

#### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・医療専門職にとって、キャリアを積むことは大事なことだと思う。「卒業生アンケート」の結果を検討し、授業改善やキャリア教育の推進に活用してはどうか。

### 4 教育成果

#### 現 状 と 課 題

国家試験対策については、国家試験対策委員会と各学科の連携の下、模擬試験、特別講義、グループ学習への支援等きめ細かに指導している。最終学年での集中的な支援と共に、1年次からの継続的な支援及び成績下位者への計画的な学習支援にも取り組んでいる。教員については質の高い指導に取り組めるよう、国家試験対策委員会とFD委員会の連携の下、国家試験対策研修会を実施している。また、学外実習等の実技系学習と関連した国家試験対策の強化に向けて取り組んでいる。国家試験合格率の推移等については全国の合格率を把握し、出題傾向の分析等も行っている。

就職支援については、就職説明会の開催、面接指導、履歴書添削指導等、組織的に取り組んでおり、就職率は高く支援の成果が現れている。

また、学会・研修会への学生参加の推奨や障害者スポーツ指導員、福祉住環境コーディネーター、サービス接遇検定等の各種資格取得の推奨等、医療専門職としての付加価値を高める教育に計画的に取り組んでいる。

卒業生の社会的評価の把握については、就職先の医療機関等への訪問や関連業界等及び学会からの情報を基に、受賞・表彰者一覧を作成している。

#### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・点検小項目「卒業生の社会的評価を把握しているか」については、学校の教育評価として、卒業後10年、20年経過した時点での評価より、5年以内や直近の卒業生が就職先からどのような評価を受けているかを把握する方が良いのではないかと。
- ・教育成果の評価は、卒業時の就職率や国家試験合格率だけではなく、数値化することは難しいと思われるが、入学者に対して教育を行い、どれくらいの人間に育てて卒業させたかである。将来的には、評価項目の中で成績下位者や留年者の数が問われる時代が来ると思う。
- ・教育成果の評価については、長期的には、国家試験に合格した後、修得した技術・知識をもとに社会にどのように貢献するかということがより重要である。

## 5 学生支援

### 現 状 と 課 題

就職支援、進路相談、退学率・卒業率の改善、健康管理等については、学生支援委員会と各学科が連携し、組織的な学生支援活動を展開している。

退学率低減については、1年次を主体にオリエンテーション、ホームルーム、面談、入学前物理授業、国語・数学の基礎学力向上に向けたリメディアル教育等を通して取り組みを進めている。また、成績下位者を対象とした個別的、組織的な学力支援活動や休学者に対するきめ細かな支援を実施している。

学生相談体制の整備については、カウンセリング室を設置し、臨床心理カウンセラーによるカウンセリングを定期的に行っている。また、全学生を対象にメンタルヘルスアンケートを実施し、学科毎に面談を行う等、支援を要する学生の早期把握と心理面へのケアに努めている。

奨学金の手続き業務等、適正な支援体制を整備し、学生の経済的側面からの支援に取り組んでいる。熊本地震で被災した学生に対しては、「被災生徒授業料等減免補助事業」による減免措置を行っている。また、令和2年4月から実施予定の「高等教育段階の教育費負担軽減制度」における支援対象校の認定申請に向けた準備に取り組んでいる。

学生の健康診断等については、感染症対策委員会と各学科・学務課が連携し適切に指導している。また、学生の通学の利便性向上のため、スクールバスの運行業務を推進している。なお、卒業生への支援に関しては、卒業生を対象に国家試験対策学習会等を開催するなど、適切に対応している。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

意見・提言はなく、内容は妥当と思われる。

## 6 教育環境

### 現 状 と 課 題

施設、設備等は関連法による基準を全て満たしており、学生が適切な教育環境の下で学習に取り組むことが出来るよう整備されている。教育機器については、より効果的な学習成果に繋がるよう、各学科と連携を図りながら一定の予算措置に基付き計画的に購入している。

学外実習については、定期的な臨床実習・臨地実習指導者会議の開催や巡回訪問指導等を通して、関係機関と密接に連携を図るなど、教育体制は適切である。また、学外実習における感染症対策については、学外実習施設の感染症対策等を踏まえながら、感染症対策委員会を中心に適切に対応している。

防災については、防災委員会と各学科の連携の下、防災管理業務の適正な運営を図っている。本年度は、全教職員を対象に、防災マニュアル等に沿って火災や地震による災害を想定した防災図上訓練、消火訓練及び「止血法などのファーストエイドと搬送法」に関する救護訓練を実施している。また、防災図上訓練の結果を踏まえ、防災管理規程における自衛消防隊組織を一部見直している。防災設備は定期的に点検し、避難経路図及び避難経路標識を掲示するなど、安全確保に向けて防災意識の啓発に取り組んでいる。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

意見・提言はなく、内容は妥当と思われる。

## 7 学生の募集と受け入れ

### 現 状 と 課 題

学生募集については、入試課題改善委員会と事務局、各学科の連携の下、高等学校訪問、オープンキャンパス、学院説明会、医療職種説明会等、広範且つ多様な活動を組織的に展開している。

平成31年度入学試験においては、指定校推薦に関する評定平均値等を見直すと共に、経済的支援として入学金等の減免措置を行っている。入学者数については、学科によっては連続して定員を充足できていない状況にあり、次年度の入学者確保に向けた新たな取り組みが検討されている。

学院案内、学院ホームページ等は、志願者・保護者等にとって分かりやすい表現を工夫し、問い合わせ・相談には適切に対応している。学院案内については、学科毎のアピールポイントを「学科の魅力」として掲載している。就職実績、国家資格取得実績等、教育成果については、学生募集活動等を通して適切に情報提供を行っている。また、Facebook等のソーシャルメディアを活用した適切な情報発信に努めている。なお、学院ホームページは平成31年4月に全面改訂を行っている。

入学選考については、アドミッション・ポリシーに沿って、合否判定基準を明確に定め、入学試験合格判定会議にて適正に選考している。

なお、学納金は各学科の定員、教員数等、多面的に検討し決定しており、妥当なものになっている。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・学生募集で最も大事なことは、在籍している学生をいかに輝かせるかである。少子化が進み、定員確保が厳しい状況の中、学生がきちんと挨拶ができるようになることや、高い学力を身につけていくことが大事だと思う。
- ・入学定員確保に向けて、オープンキャンパス参加者に対する受験料減免措置と共に、他の優遇措置を考えてみてはどうか。
- ・学院のホームページは大変分かり易くできている。ホームページへのアクセス数を把握するために、カウンターを設置することも考えられる。
- ・学院の Facebook では、先生方からの話題だけでなく、学生の声を発信していくと良いのではないか。

## 8 財務

### 現 状 と 課 題

志願者確保に向け、5学科を擁する医療専門職養成校としての特色を生かした広報活動を展開しているが、近年、総定員の充足率が低くなってきている。令和元年度は、全体として前年度を上回る入学者を確保できているが、前年度に引き続き総定員を充足できていない状況にあり、入学定員の確保が課題である。

校舎の新築、改修等で一時増加した借入金も、開校37年の伝統校としてのこれまでの実績により、計画どおり返済できており、財務基盤は問題ないと言える。また、財務情報については、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」を踏まえ、財務状況を学院ホームページで公表するなど、適切に対応している。

予算・収支計画については、学院事業計画を法人理事会で諮り、年度予算、中期計画等を審議し決定している。

会計監査については、顧問税理士事務所による月次監査等、税理士事務所と連携して適正に実施されている。

### 学校関係者評価委員会の意見・提言

- ・財務基盤の安定化は学生数の確保とリンクしている。今後、学生募集や退学率低減に向けた一層の取り組みが望まれる。

9 法令等の遵守

<b>現 状 と 課 題</b>
<p>専修学校設置基準等の関係法令に基付き、学則や就業規則等を整備し、適正な運営がなされている。各種規則等については、教職員へ徹底すると共に、学生に対してはオリエンテーション等で規則遵守を周知している。</p> <p>個人情報保護については、その重要性について教職員や学生に周知を図ると共に、個人情報保護法に基付き、個人情報保護方針と個人情報保護規程を定め、適切な対策を講じている。また、情報モラルの徹底に向け、ソーシャルメディアポリシーを定め、教職員や学生に周知している。なお、学外実習における学生の苦情相談等へ適切に対応するために、ハラスメントの防止に関する規則を一部改正している。</p> <p>私立専門学校等評価研究機構の基準に基付き平成 29 年度に実施した自己点検・自己評価の結果に対して、学校関係者評価委員会による外部評価を行っている。学校関係者評価委員会からの意見・提言に基付き、学校運営や教育活動の改善に取り組んでいる。</p> <p>自己点検・自己評価及び学校関係者評価に関する方針は、それぞれ自己評価委員会規則、学校関係者評価委員会規則に明示されており、教職員へも周知している。自己点検・自己評価報告書は職員会議で審議し、学校関係者評価報告書、教育課程編成委員会議事録と併せて学院ホームページで広く公表している。また、教育活動、学校運営の状況に関する情報も学院案内等で広く提供している。</p>

<b>学校関係者評価委員会の意見・提言</b>
<p>意見・提言はなく、内容は妥当と思われる。</p>

10 社会貢献

<b>現 状 と 課 題</b>
<p>各学科とも、それぞれの養成する専門職としての特色を活かしながら、関連する行政や職能団体と連携して、社会的活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>献血への協力や熊本城マラソンボランティアをはじめとした各種ボランティアへの参加等の地域交流においても、全学を挙げて取り組んでいる。また、本学周辺の清掃活動に、学生と教職員が協同して毎週定期的に取り組んでいる。</p> <p>外部からの学生ボランティア参加要請については学生支援委員会で取りまとめ、学院内グループウェアやポスター等を通して情報を提供する等、学生のボランティア活動を支援している。また、学校関係者評価委員会からの意見・提言に基付き、ボランティアの活動状況について学院ホームページを通して情報発信している。</p>

<b>学校関係者評価委員会の意見・提言</b>
<p>・熊本で開催が予定されている世界規模の大会に係るボランティア活動に、学生が積極的に参加してはどうか。</p>